

農業交渉議長テキスト等について

平成20年12月7日
農 林 水 産 省

1. 概要

日本時間12月7日(日)未明、ファルコナー農業交渉議長より、本年7月のテキストの改訂版が提示された。閣僚会議が開催されることが決定されれば、このテキスト及び同日改訂されたNAMA 交渉議長テキストをもとに行われることとなる。

2. 農業議長テキストの特徴

- (1) 今回のテキストは7月以降の議論の進展を踏まえ、括弧書きの部分は減ったが、合意に至っていない論点(重要品目、関割新設、SSM(途上国向け特別セーフガード))を別紙とし、政治的議論の足場(プラットフォーム)との位置付け。
- (2) 重要品目の数及び取扱いについては、テキスト本体において数の基本が4%とされ、不公平是正の2%(追加支払い0.5%関割拡大)については維持された。我が国が主張している8%については別紙において我が国が主張していることは明示されたものの具体的な対応案は提示されていない。
- (3) 関税割当の新設については、前回テキスト同様認否両論併記とされたが、別紙において全タリフラインの1%について通常より大きい関割拡大を行う場合に限り認める案が提示された。
- (4) 上限関税については、テキスト本体においては前回のテキストと同様に引き続き言及がないが、別紙において、一般品目に係る100%を超える高関税品目については、従来の選択肢に加えて、一定期間全タリフラインの2%認められる選択肢が提起されている。
- (5) 輸出規制については、関係国との協議及び農業委員会への報告

などの規定が新設され、評価できる。

- (6) その他、SSMについては、別紙において、ウルグアイ・ラウンドの譲許税率を超えることが許される条件として、2段階の発動水準と追加関税の組合せ等の案が提示された

3. 今後の対応

我が国としては、今回のテキストにおいて、重要品目の数、関割新設が別紙とされ、交渉の足がかりはあるが、今後の議論として残されている。また、上限関税の適用を主張する国が依然多数存在。食料輸入国としての我が国の立場がモダリティに反映されるよう、上限関税の不適用、重要品目の十分な数と柔軟性の確保を最重要課題として、今後の交渉に臨んでいく。

4. NAMA議長テキストのポイント

- (1) 議論の収れんが見られたとして、テキストにこれまで付されていた括弧の多くが外され、品目カバレッジについても、我が国が海草類を非農産品として扱う旨記述した脚注から括弧が外された。
- (2) 分野別関税撤廃については、推進派と非推進派との間で、テキストの文言、非義務的な参加の原則を維持した上での参加表明のあり方等について、議論のベースとして受け入れられているが、収れんが見られていない旨、明記された。